

番号	30	平成28年度公共事業再評価調査				担当課名	砂防課
事業名	急傾斜地崩壊対策(一般-大規模)【防災・安全交付金】			事業主体	静岡県		
箇所名	ふなぎらやました 船明山下			関係市町村	浜松市		
事業採択年度	平成 24 年度	計画期間		平成24年度 ~ 平成30年度			
用地着手年度	平成 26 年度	工事着手年度		平成 26 年度			
再評価理由※	事業採択(H24)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円 200	投資状況 (百万円)	~H26年度 41	H27年度 48	H28年度見込 30	計 119	
事業概要	<p>(1) 事業目的 擁壁工を整備することにより、がけ崩れ等の斜面崩壊から地域住民の安全を確保する。</p> <p>(2) 事業内容 全体計画延長 289.0m 重力式擁壁工 延長 267.0m、高さ 2.5m~5.0m もたれ式擁壁工 延長 22.0m、高さ 7.5m</p>						
【視点1】 事業の 必要性	<p>(1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化 今回地域住民8人にアンケート調査を行った結果、「今後も船明山下地区の急傾斜地崩壊対策事業を進める必要があるか」の問いに対して、すべての方が「継続の必要性を感じる」と回答しており、地元の事業に対する期待も非常に大きい。</p> <p>(2) 事業の投資効果 投資効果(費用対効果) : 2.37 総便益: 484.8百万円 総費用: 204.8百万円 急傾斜地の崩壊の際に被害を受ける区域には、人家12戸、市道船明9号線、市道船明27号線がある。 住民の高齢化が進んでおり、降雨時の避難が困難な家庭もあり、早期の事業執行が望まれている。</p> <p>(3) 事業の進捗状況(H28末) 進捗率: $119/200=59.5\%$ (事業費)、$117.3/289=40.6\%$ (整備延長) 残事業: 重力式擁壁工(北、南区間 延長=184.2m)</p> <p>評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点2】 今後の 事業の進捗 の見込み	<p>これまででも、用地買収や工事協力などの地元調整が円滑に行われており、今後の事業についての反対者等もない。アンケート結果でも、回答者のすべてが「事業を継続する必要性を感じる」と回答しており、事業に対する地元の要望も強い。 引き続き、地元の協力関係の維持・向上などに努めることから、今後も事業は順調に進捗し、平成30年度完了見込みである。</p> <p>評価 継続が妥当 ・ 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
【視点3】 新たなコスト 縮減・代替案 立案等 の可能性	発生土砂の流用等、引き続きコスト縮減に努める予定である。						
対応方針 (案)	<p>(1) 対応方針(案) 本事業を(継続) ・ 見直し後継続 ・ 中止) する。</p> <p>(2) 理由 事業は順調に進捗しており、費用対効果も認められることから、事業を継続して整備の促進を図る。</p>						

費用対効果算出説明書

**「船明山下」急傾斜
（「急傾斜地崩壊対策事業の費用便益分析マニュアル(案)」建設省砂防部）**

総括表

総便益B	[事業を実施しない場合の被害額]－[事業を実施した場合の被害額]	484.8百万円
総費用C	[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]	204.8百万円
B/C		2.37

総便益

[急傾斜事業を実施しない場合の被害額]－[急傾斜事業を実施した場合の被害額]

年平均被害軽減期待額を評価対象期間57年(整備期間7年＋耐用期間50年)について累計する。ただし、年平均被害軽減期待額は算出基準年(平成28年)に基づく社会的割引率(4.0%)で現在価値化したものとする。

$$\begin{aligned} \text{便益計} &= \sum \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n \\ &= 484.8 \text{百万円} \end{aligned}$$

※ 年平均被害軽減期待額: がけ崩れ発生の生起確率(1/10年超過確率降雨及び1/50年超過確率降雨)それぞれに対応した被害軽減額の平均値の合計。

※ 人的被害額/1人あたりは、1/50年超過確率降雨のみで発生し、市町の人口比率を反映した各年齢別の被害額の平均額である。その平均額を被害想定区域内の死者数を想定し乗じて人的被害額を算定する。

※ 整備期間中の被害軽減額は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

[建設費]＋[評価期間内に必要な維持管理費]

各年次の建設費と維持管理費(過去5ヶ年の平均値)を評価対象期間57年(整備期間7年＋耐用期間50年)について累計する。

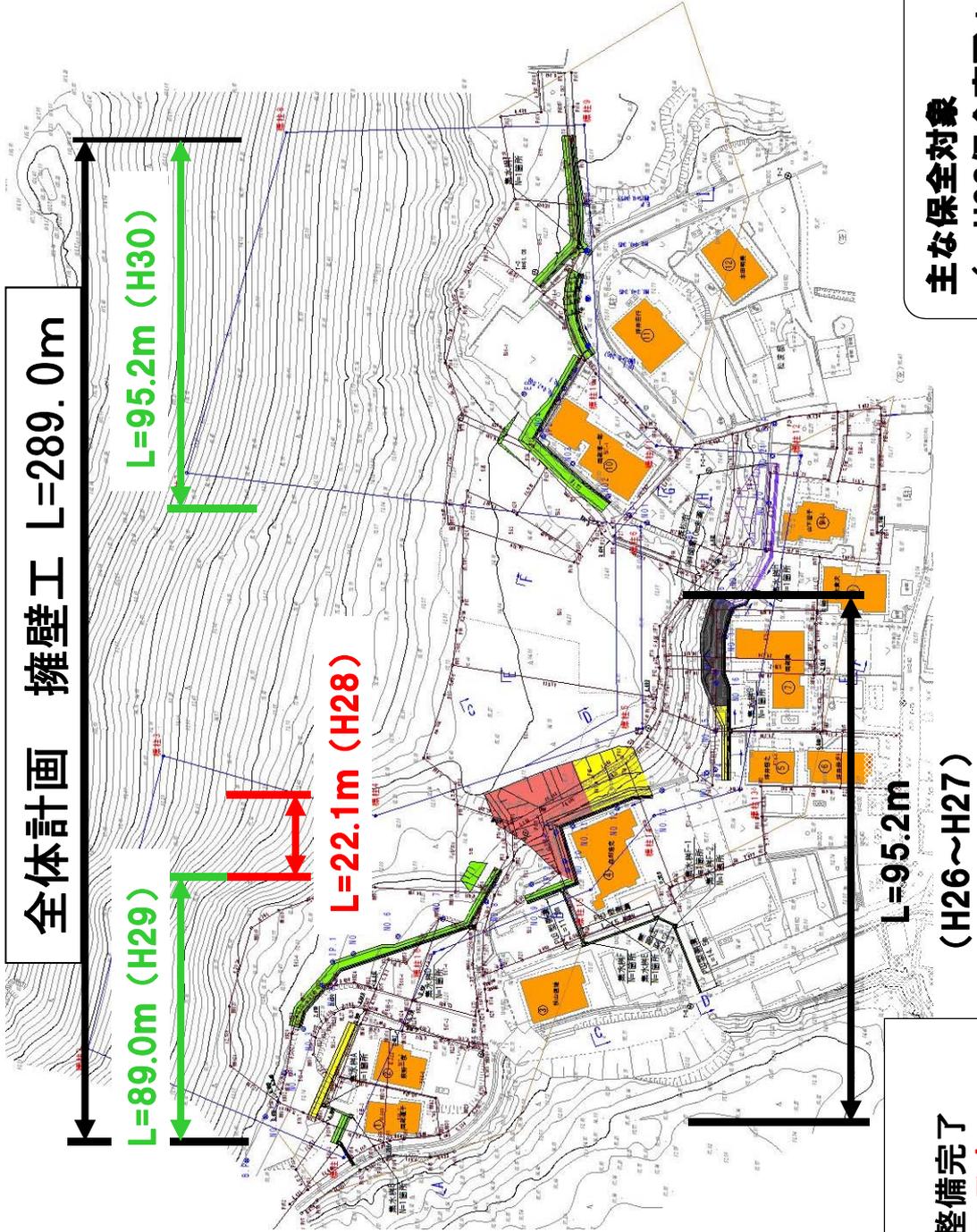
ただし、各年次の建設費及び維持管理費は、算出基準年(平成28年)に基づくデフレータ及び社会的割引率(4.0%)で現在価値化したものとする。

$$\begin{aligned} \text{費用計} &= \sum \text{年間建設費} / (1+0.04) + \sum \text{年間維持管理費} / (1+0.04) \\ &= 202.6 \text{百万円} + 2.2 \text{百万円} \\ &= 204.8 \text{百万円} \end{aligned}$$

船明山下地区の位置



船明山下地区の事業概要



全体計画 擁壁工 L=289.0m

L=89.0m (H29)

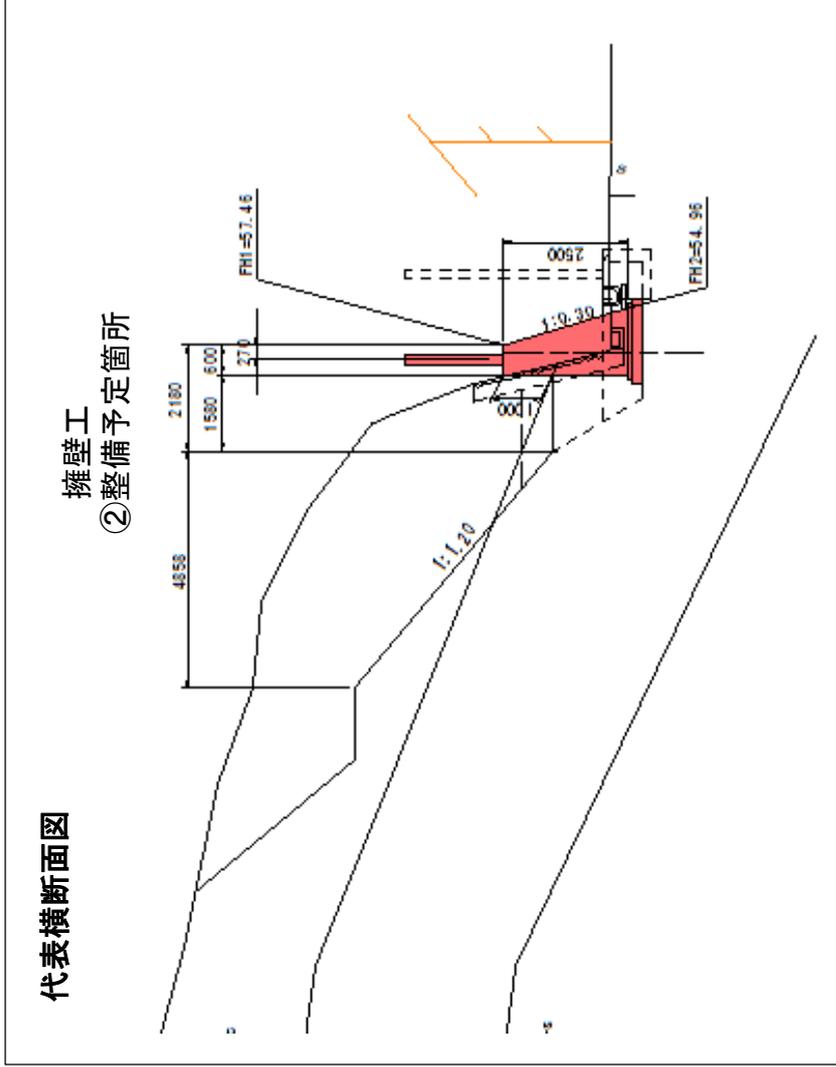
L=95.2m (H30)

L=22.1m (H28)

- 【凡例】
- H27まで整備完了
 - H28整備完了予定
 - H29以降施工予定
 - 急傾斜地崩壊危険区域
 - 被害想定範囲

- 主な保全対象
 (～H28保全完了+保全残)
- 人家12戸
 - (4戸+ 8戸)

施設の整備状況と今後の対策工事



①擁壁工(整備済箇所)



②擁壁工(整備予定箇所)

総便益	484.8百万円
総費用	204.8百万円
B/C	2.37

事業の進捗状況(H28末)

- 事業費 59.5%
- 擁壁工 40.6%

施設整備を継続し、
人家12戸の保全を
図る